

令和8年度 第1回学校運営協議会 報告

1 日 時 令和8年5月12日（火）午前9時30分から11時30分まで

2 会 場 本校 会議室

3 出席者等

(1) 学校運営協議会委員

【委員①】元特別支援学校長（地域コーディネーター）

【委員②】中村町自治会長

【委員③】本校PTA会長

【委員④】あおい小鹿

【委員⑤】ありんこの里副管理者

【委員⑥】大里生涯学習センター長

【委員⑦】小糸製作所人事部

(2) 校内教職員

校長、副校長、事務長、各学部主事、地域支援部長、教務課長

4 会議次第

(1) 開会

(2) 校長挨拶

(3) 学校運営協議会委員の任命

(4) 自己紹介

(5) 協議1「令和8年度学校経営計画について」

(6) 校内参観

(7) 学校応援活動「学校応援メッセージ」

(8) 閉会

5 協議等内容

(1) 校長挨拶（資料を基に説明）

- ・5月9日（土）に行われたPTA奉仕活動の様子を伝えた。学校と中村町の方々が協力して学校整備を行い、学校と地域がかかわり合う良い機会となった。
- ・昨年度の学校運営協議会での意見を反映して、今年度の学校経営方針を作成した。この学校運営協議会で委員の方々と学校経営方針を共有し、意見をいただきたい。引き続き、学校と地域がかかわり合い、相乗効果の中で地域と共にある学校づくりを進めていきたい。

(2) 協議等

ア 4月からの学校の様子（スライドを基に紹介）【校長】

- ・幼稚部の入学式や「こいのぼり会」の様子、生き物（ヤモリ）の観察を通じた学びについて紹介した。
- ・小学部の入学式の様子や「春の遠足」で雨の中、子どもたちが歩いて登呂遺跡まで行って活動した様子を紹介した。
- ・中学部の入学式の様子や歓迎行事で中学部2年生が中心となって調理やゲームを行った活動を紹介した。
- ・昨年度、生徒会が中心となって作成した「しずろっこ合言葉」（動画）を紹介した。

イ 令和8年度学校経営グランドデザイン、今年度の学校経営計画重点目標の共有（資料を基に説明）【校長】

- ・予測困難な時代において、自ら考え、多様な価値観をもつ人と交わり合いながら主体的に生きる共生社会の担い手を目指す。
- ・子どもたちが自信をもてるように「できた」という経験を日々の学習や活動の中で積み重ねていく。

ウ 各学部の経営方針についての説明【部主事、部長】

- ・幼稚部は「友達と楽しく活動し、たくさんお話する子」を目指す。今年度はなかはら幼稚園や地域との交流を通じて、かかわりを楽しめる子を育てていきたい。また、保護者と活動を共有し、保護者も将来を見据え社会とのつながりを共に考えられる姿を目指したい。
- ・小学部は学部目標を達成するために「友達とかかわりながら進んで体を動かす子」を今年度の重点として取り組む。子どもたちの技術の向上ではなく、体を動かすことの楽しさを味わうために、体を動かす機会を多く設定していく。昼休みに行っているスポーツデイのような縦割りの活動を行ったり、体育で様々なグルーピングを設定したりして、人とかかわりや、やりとりも充実させたい。
- ・中学部は「自分で考え、協同する生徒」を目指すために、今年度は「健全な心と体の成長の促進」と「社会とつながる学びとキャリア教育の拡充」の2点を目指す。「健全な心と体の成長の促進」では、毎日体を動かす習慣をつくったり、「気持ちの表現ボード」やタブレット端末等を活用し運動前後の気持ちを可視化したりして、楽しさの積み重ねから意欲を高め、主体的な行動につなげたい。「社会とつながる学びとキャリア教育の拡充」では、大里中学校やネクスコ中日本との交流、職場見学等を通じて将来の社会参画を見据えたキャリア教育の推進を図る。
- ・地域支援部の目指す子どもの姿は、乳幼児教室では「身近な人や物とかかわりを楽しむ子」、通級指導教室では「学校生活や学習に自信をもって意欲的に参加できる通級生」を目指している。今年度はインスタグラムや学校ホームページ等で補聴機器のことや支援方法等の情報を積極的に発信する。また、発達段階に合わせた、難聴についての発信の仕方を支援する。さらに、関係機関と連携し、難聴児支援のサポート体制を整える。

エ 令和8年度学校経営計画についての意見、質問等

- ・中学部が3人になり、小学部高学年が1人という状況で会話や人とかかわりが少なることへの影響について。【委員②】

(中学部主事) 学校外での活動や交流だけでなく、学習の中でインターネットを活用して様々な意見を取り入れたり、朝の活動で新聞を読み込み、時事にかかわることや多面的な視点を補い、それについて話し合う機会を設定したりしている。また、浜松聴覚特別支援学校とZoomを使って英語の学習で授業交流をしたり、沼津聴覚特別支援学校、浜松聴覚特別支援学校の3校で卓球大会を行ったりする予定である。

(小学部主事) 小学部6年生は1名だが、小学部のリーダーとして下級生のためにできることを考えたり、発信したりする機会を設定している。子ども同士でかかわり合う機会は少なくないと感じる。しかし、学習の中では、1人だけの意見になってしまうので、様々な意見に触れられるような工夫を教員が行っていききたい。また、今年度は沼津聴覚特別支援学校と一緒に修学旅行に行く予定である。

- ・働く保護者が増えて、幼稚部から保護者同士のかかわりが減ってきている様子が見られるが、学校でどのように補っていくのか。【委員③】

(幼稚部主事) 月1回保護者学習会を行い、聞こえのことや進路についての情報を提供したり、PTA活動でも保護者同士の交流会を設定したりして、先輩の保護者から情報を聞く機会を設定している。

(地域支援部長) 保護者も将来の姿をイメージしにくく、幼稚部になってからやっと小学校で必要な力に気付いたり、進学タイミングで発信力の大切さを感じたりする。通級生の集いを年3回実施していて、その懇談会の中で通級生の保護者の話を聞くと、発達段階ごとで身に付けておきたい力は違う。懇談会で出た保護者からの情報を本校の保護者にも共有していきたい。

- ・PTAの交流会を計画しても参加できない保護者がいて、参加する保護者が決まっているときもある。自分自身は幼稚部の付き添いのときに不安や悩みを他の保護者と話して解消することができていたが、今は付き添いも難しく、話をして解消することができない保護者もいる。交流会の回数を増やしたり、アンケートを配付して悩みを書いたりするのは保護者の負担になることもある。どのような工夫をしたら保護者が悩みや不安を解消できる環境を設定できるのか。【委員③】

(校長) 学校からも情報を発信し、保護者と一緒に交流についても考えていきたい。

- ・社会に出た際に、自分の聞こえにくさや周囲との違いを感じ孤立することがある。自分の気持ちを言語化することの大切さを感じた。【委員④】
- ・縦割りで下級生や上級生とかかわり合うことはできているが、同級生のかかわりは少ないことが気になった。学校では友達も教員も自分の言うことを分かってくれるが、社会にでたときに自分の聞こえにくさやコミュニケーション力の無さに気付いて仕事を辞めてしまうことがある。地域の学校の子どもたちは集団の中で学習していることを知り、そのような社会に自分が出ていくことを子どもたちが意識できると良い。

(校長) 学校でも集団の中でのかかわりができるように、交流及び共同学習を行っている。学校だけでなく、家庭でも地域の行事や習い事に参加し、つながりをもったり、集団に慣れたりすることが大事である。引き続き学校や家庭、地域と連携してやっていきたい。

- ・実際に先輩たちが社会に出て困ったことや、どのように課題を乗り越えてきたか等、話を聞く機会を設定してほしい。【委員⑤】
- ・昨年度、小学部が遠足で大里生涯学習センターを訪れ、大里カルタをやってくれた。日常生活の中であまり聞かない言葉がかかるたに出てくるので、活用していただき、大里生涯学習センターと交流してほしい。職員が出向いて交流することも可能である。【委員⑥】
- ・沼津聴覚特別支援学校、浜松聴覚特別支援学校との3校の連携については、同じ目的をもって連携できると良い。また、中学部の気持ちを可視化する取り組みが良いと思う。自分の気持ちを知るだけでなく、どのように自分の気持ちに対応していくか、解消方法等も見つける機会になるかもしれない。【委員⑦】

(校長) 昨年度から健康体育課でストレングスカードを活用してセルフマネジメントの促進を行っている。また、浜松聴覚特別支援学校や沼津聴覚特別支援学校との連携では、令和10年に静岡で全国聾学校の研究大会が行われる。昨年度は夏休みに3校の教員が静岡校に集まって研修をした。今年度から令和10年の全国聾学校の研究大会に向けて、3校でつながる意識を高め、さらに連携していきたい。

(3) 学校応援活動について「学校応援メッセージ」

- ・委員の方から学校応援メッセージを記入していただいた。

(4) 次回の学校運営協議会に向けて

- ・第2回学校運営協議会は7月30日(木)を予定している。